©江府町観光協会

江尾十七夜イメージキャラクター・えびちゃんが
江府町の観光スポットやイベント情報をお届けします♪

えびふらいでー

VOL.32

今回は江府町の花「あやめ」についてのレポートをお届けします(^^)

奥大山・江府町の あやめ 特集

毎年５月になると町のあちこちで目にすることが出来るあやめ。
この花は江府町の町花に指定されています。
まずはこのあやめについて調べてみました♪

アヤメ（菖蒲、文目、綾目、学名:Iris sanguinea）は、アヤメ科アヤメ属の多年草である。病気を治す薬としても使われる。
アヤメの多くが山野の草地に自生しており、他のアヤメ属の種であるノハナショウブやカキツバタのように湿地に生えることは、まれである。葉は直立し、高さ 40-60cm 程度。5 月頃に径 8cm ほどの紺色の花を 1-3 個付ける。外花被片（前面に垂れ下がった花びら）には網目模様があるのが特徴で、本種の和名の元になる。花茎は分岐しない。北海道から九州まで分布する。
古くは「あやめ」の名はサトイモ科のショウブ（アヤメグサ）を指した語で、現在のアヤメは「はなあやめ」と呼ばれた。アヤメ類の総称として、厳密なアヤメ以外の種別にあたる、ハナショウブやカキツバタを、アヤメと呼称する習慣が一般的に広まっている（施設名、創作物など）。

参照：フリー百科事典「ウィキペディア(Wikipedia)」

あやめはお薬の原料としても用いられていたんですね！
その一方で葉や茎には毒性もあり、下痢、嘔吐、胃腸炎などを引き起こすそうです！扱いが難しそうですね(＞＜)
また、あやめと見た目がそっくりな「ハナショウブ」、「カキツバタ」という花があり、見分けるのが難しいですが、ちゃんと違いがありました(^^)

種別	花の色	葉	花の特徴	適地	開花時期
あやめ	紫、まれに白	主脈不明瞭	・網目模様 ・外側の花びらに黄色い模様	乾いた所に育つ	5月上旬～中旬
カキツバタ	青紫、紫、白、紋など	主脈細小	・網目なし ・外花被片に白い斑紋がある	水中や湿った所に育つ	5月中旬～下旬
ハナショウブ	紅紫、紫、絞、覆輪など	主脈太い	・網目なし ・外花被片に黄色い斑紋がある ・花の色が多い	湿った所に育つ	6月上旬～下旬

参照：フリー百科事典「ウィキペディア(Wikipedia)」

こうして比べてみると結構違いがありますね！
覚えやすいのは、花の特徴と適地でしょうか。
江府町も場所によってはカキツバタやハナショウブが咲いているかもしれませんね。
このあやめがなぜ町花になったのか調べたところ、**昔、江府町内に自生していたあやめを大切にしようと保全に力を入れたのが江府町の町花になるきっかけ**だったと言われています(・▽・)✤

©江府町観光協会

あやめの花言葉

あやめには「よい便り」「メッセージ」「希望」という花言葉があります。
どれも前向きで素敵ですね★
あやめは英語でアイリス(Iris)ですが、英名には上記の他にも「faith（信頼)」「friendship（友情)」「wisdom（知恵、賢さ)」といった花言葉があります。
これらの花言葉の由来にはギリシャ神話が深く関係しています。

あやめ(アイリス)にまつわるギリシャ神話

あやめの英名アイリス(Iris)はギリシャ語でイーリス(イリス、Ἶρις)と読みます。
イーリスには虹という意味があり、これはギリシャ神話に登場する虹の女神イリスに由来しています。
ゼウスの妻ヘラの侍女として伝令役を担っていたイリスは、ヘラに信頼され、可愛がられていましたが、ゼウスから幾度となく求愛されていました。
ゼウスからの求愛に困ったイリスは「どこか遠くへ行かせてほしい」とヘラに懇願します。
ヘラはその願いを聞き入れ、イリスに七色に輝く首飾りをかけ、神のお酒を 3 滴頭からふりかけました。
すると、イリスは虹の女神へ姿を変えました！
その時ふりかけたお酒のしずくが地上に落ち、アイリスの花になったと言われています。
「よい便り」「メッセージ」という花言葉は、イリスが伝令役を担っていたことからきているんです(^^)

虹の女神様が由来だなんて、
とってもロマンチックですね♡
江府町には福祉施設の「あやめ」や
アイリス合唱団など、町花の名前が
使われている施設や団体も
あるんですよ～(・∇・)
それほどこの町にあやめという花が
広く浸透しているということですね！
私もますますあやめが好きになりました♪
5 月～6 月に江府町にお越しの方はぜひ
あやめを探してみてください！

江府町の観光地に関するお問い合わせは
江府町観光協会(0859-75-6007)まで！

©江府町観光協会

あやめフォトギャラリー

✤奥大山・江府町のあやめ写真をまとめました✤